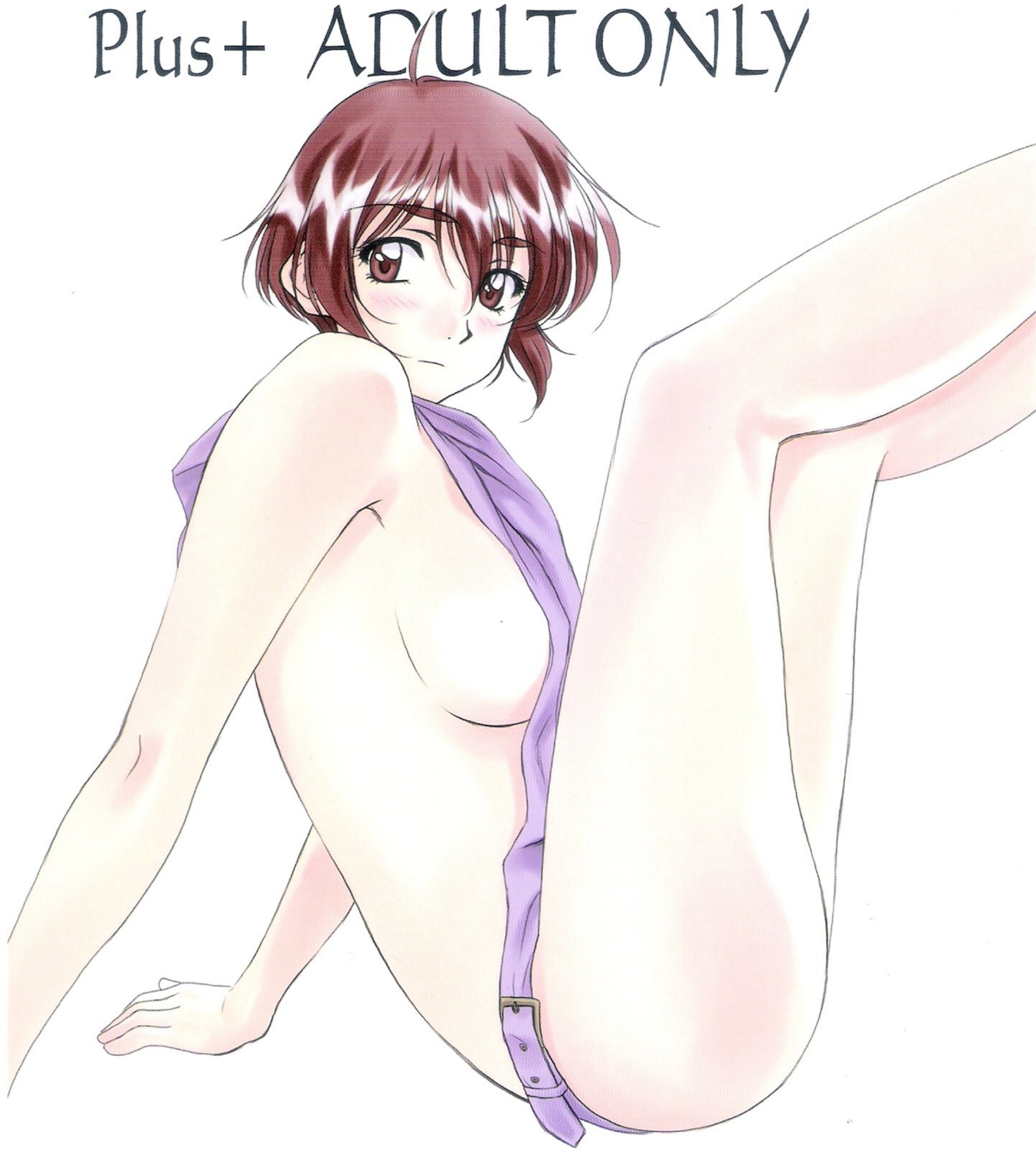
POLORINKEN MENU:32
AGAINST LOVE TRAIN
Plus+ ADULT ONLY



「自分の気持ちが分からなくなっちゃったの…お願い…もう一度後ろから…」そう言うとほのかはスカートをまくり、小振りなヒップをこちらにむけて突き出した。熱い蜜が溢れ出す彼女の秘所に剛直の先端を当てると、一気に最奥まで貫く。空洞を満たされたほのかは歓喜の嬌声をあげて背中を反らせる。

「あんなに嫌だったのにッ…どうしてこんな…ああ…凄いッ…」膣口がキュッとしまり、熱い媚肉が肉棒に絡み付いてくる。可愛い胸に手を伸ばすと薄桃色の乳首が痛々しいほど立っている。鏡の中の自分が発情した牝馬そっくりの姿で交尾している。その背徳感がほのかを堪らなく昂ぶらせているようだった。

「ん〜、どぉしよっかな〜」そんな、満足したら成仏するって…「だってこの娘の体、居心地良いんだもん」困ります！なんとかあの世に…「こらっ、腰が止まってるぞ」す、すいません…で、一体どうしたらえみるの体から出て行って…「もうッ、妬けちゃうわねぇ。そんなにこの娘が好きなの？ねえねえ？」
「ま、これ以上他人の恋路の邪魔をしちゃ野暮だもんねぇ。それじゃあの世への手土産にう〜んと濃厚なエッチをしてくれたら考えてもいいわよ。まず青姦はお約束ね。それから満員電車で痴漢プレイもしておきたいしぃ、逆ソープも…」そんなフルコース、お姉さんの前にこちらが昇天しそうなんですが…。

痴漢に気付いて声を上げようとした彼女の機先を制して唇を塞ぐ。欲情に瞳を潤ませながら積極的に舌を絡めてくるのは被害者として如何なものか。手早く太腿を抱えあげて怒張を挿入すると、媚肉から豊潤な愛液が溢れ出して内腿を伝い落ちる。「あっ…んんっ」遠藤の口から悩ましい音色が漏れはじめた。

「ほら、あなたがハマってるみたいだからちゃんと見つけておいたのよ、うふふっ」痴漢プレイ対応のイメクラルーム付のホテルなんてどこから見つけたのか。それにどう考えてもハマってるのは彼女だと思うのだが、この場は黙っておくのが賢明だ。嬉々として吊り革にぶらさがる遠藤の姿が微笑ましい。

先日のレイプごっこで正常位一回戦止まりの壁を打ち破った二人は日進月歩の勢いで新たな境地を切り開いていく。「せ、先生ッ！何をなさるんですかっ？そんなっ、そんな極太の体温計でアソコの奥まで検温なんてッ…ああっ…」本日はナースごっこと言うことで、白衣の下の息子にも力が漲ろうというもの。

…ただ気になるのは主導権は自分にある筈が、いつの間にか彼女の掌で踊らされているように感じることだ。考えすぎ？「ええッ？次は先生の太くて逞しい注射器の熱いお薬をいっぱい注ぎ込むだなんて…いやッ！真奈美、恥ずかしくて死んじゃいますッ！」ああ、なんかまたもや具体的に彼女のペースに…

自分の気持ちが判らなくなっちゃったの～

だって！

良く言うとねぇ

な、なによっ！ひとの秘めごとネタにしないでッ

ほんでもほのやんみたく美少女にそないに言われたら、たいがいの男は激チンやんなぁ？

撃沈→激チン

オヤジ…

なあ？

普通、こんな手に騙される？

あのバカ

んー、でも彼、結構ボケてるとこもあるから

だからなぜ痴漢？

はあ

ちなみにココの特別室は凄いんだとけん。長崎の路面電車の車内が完っ璧に再現されとっんばい

ところで真奈美ちゃん、ホントに前回のデートから進けてるわよねえ

イヤ イヤ

自分で言うのも何ですが、鳥籠から大空に飛び立った可憐な小鳥みたいな感じ？

…どちらかと言うと戒めの鎖から解き放たれた淫獣と言った方が…

ねえ

今日も優とダッチワイフごっこ。猫耳制服少女に仕立てた彼女の両脚を大きく開き、その淫口に指を押し当てると、既に女蜜に濡れそぼる恥肉は指を自然に吸い込んでいく。そのまま膣奥まで潜り込ませた指で蜜壷を乱暴にこねくりまわす。汗の滲んだ肢体が震え、首輪の鈴の音に似た小さな嗚咽が漏れる。

淫蜜を絶えず溢れ出しながら、なお懸命に快感に抗おうとする優。そんな彼女の痴態がこちらの嗜虐心をさらに刺激する。互いの肉欲が高まった頃合を見て、勃起したペニスを外界へ弾けさせる。先走りの汁に溢れた怒張を見るなり優の瞳が期待で熱く潤み、人形のようだった表情にみるみる感情が流れ込んだ。

陸上で鍛えられた括約筋がペニスを一際強烈に締め付けると、夏穂は四肢を痙攣させて絶頂に達した。「はぁ、はぁ…なぁ…あんた、こないな商売いつまでもやっとったらあかんで、ほんま。親が泣いとるで」…ちゃっかり愉しんだ後でいけしゃあしゃあと風俗嬢に説教するところまでオヤジっぽいのはサスガだ。

「な、何枚ものお好み焼きをコテで返しながら次の注文をうけつつ、生地をかき混ぜるようにッ…」耳たぶを甘噛みしながら両手で両のバストを揉みつつ、腰は正確に三浅一深のリズムで夏穂の膣奥を突き上げる。姐さん直伝のテクニックに本人が翻弄されて肢体を仰け反らせる。「あっ、あかんッ…イクッ！」

るりかの耳にそっと嘘を吹き込む。短い二人のデートを刺激に満ちたものにするためなら彼女も許してくれるだろう。「ええっ！……マジックミラー？……隣の部屋の人達に見られてるのッ？」途端にるりかの蜜壷が一際強烈に締まった。肉襞が蠢動してペニスに絡み付く。ミミズ千匹とはよく言ったものだ。

背後から貫いたるりかをM字開脚に抱え上げ、幼女がおしっこをするような格好で姿見の前のソファに座る。「あんッ……あふッ……」下からの抉るような突き上げに甘い吐息を漏らしながら、鏡に映った自分の痴態に熱っぽい視線を送っているるりか。やはり他人の視線が無いと物足りないのだろうか。

「ゆっ、許してっ…せめて、せめてスクール水着を着ているときは、真面目なままの私でいたいのっ…」意味不明な言葉と裏腹な快楽に悶えながら、美由紀は首にしがみつき、挿入された肉棒を支点に豊満な姿態を大きくバウンドさせる。予感は的中して、制服や着物への背徳感がより美由紀を興奮させている。

校則違反のグラマーな肢体をくねらせながら、怒張を膣肉で舐りまわし歓喜の声をあげる優等生。「もっと、もっと突いてぇッ」ひょっとしたら美由紀はむっつりスケベなのかも知れない。いや、ムチムチだからむっちりスケベか。巧い！とひとりごちた瞬間、美由紀の粘膜がペニスを絞るように収縮した。

彼のテクニックって夏穂ちゃんのおかげだったんだー

感謝しなきゃ

しかし七瀬さんサスガと言うかなんと言うか

野坂？業田？

すぴー

アブノーマルは優ちゃんの独壇場かしら？

はいはいはーい！アブノーマルならわたしわたしー！

出た、アブノーマル路線まっしぐら

他人に見られて興奮するなんて…

でも、露出願望って演技じゃないの？

あはっ、私、美由紀ちゃんみたく自分に嘘を吐けるタイプじゃあれへんからー

…聞き捨てなりません、どういうことですか？

せ、清純ですッ

ほらほら～また清純っぽく振舞ってからに

で、今度のデートはブルマでしちゃうワケ？

しません！

ビデオ撮ったらまた見せてね～

見せませんッ！

やっぱ撮るんだー

「あンっ…ご主人様ぁ…素敵ですぅ…もっと…もっと可愛がってぇ…」デートを重ねる度に千恵のメイドっぷりも板についてきた。いまや自費で買い揃えたコスチュームまで持参して、今日も今日とてベッドの上で可愛い痴態を曝す千恵。その豊満で敏感な躯を小刻みに震わせながら甘えた声で抽送をせがむ。

「えっ…？そんな…2人が繋がっている部分の具合を報告しろなんてッ…」事後の鉄拳が脳裏をよぎるが、メイド姿の千恵を服従させる快感には抗えない。被虐の悦びに瞳を潤ませながら千恵が呟く。「ご、ご主人様の逞しく反り返られたお坊ちゃまが…千恵のお、お〇んこを奥まで抉ってくださって…ああッ…」

「んッ…いいッ…お願い…もっと…もっと虐めてぇ…んふンッ…」官能の下拵えが十分だった明日香はあっという間に煮え滾ってしまう。前から後ろから弄ばれるままの明日香は、普段からは想像もつかないような従順さで、まさに借りてきた猫、いやリスのよう。そのぶん、ことが終わった後が思いやられる。

「ねぇ…今日も縛ってぇ…」手錠のまま犯されて以来、被虐の快楽に目覚めたのか、あるいはもともとM っ気があったのか、明日香はデートのたびに緊縛プレイをねだるようになった。絡みつくロープで自由を封じられただけでしとどに濡れそぼる明日香の腰をがっちり掴んで、バックから怒張を突き立てる。

宿泊費タダ、三食昼寝付きの謳い文句に釣られて安達酒店でバイトをすることに。重労働でクタクタの体に看板娘の魔手が伸びる。「え～っ？疲れてるから今夜は勘弁？じゃあ、オチンチンに訊いてみるわね」妙子が勃起を扱きたて、その技巧を凝らしたフェラに下半身はあっさり理性を裏切る。

「ふふっ…もうこんなにビンビンじゃない…今夜も寝かせてあげないんだから…」言うなり妙子は握ったままのペニスを肉裂にあてがい、そのまま腰を下ろしていく。「ンンッ…凄く硬い…これが疲れマラってヤツかしら？…あんッ…」妙子に促されるまま自分も腰を突き上げ始める。タダより高いモノはない。

見上げると汗まみれの白い裸身が紅潮し、遣いにうねって悶えている。長く美しい黒髪がやらしく円を描く腰の動きにあわせて乱れる。なんとも悩ましい眺めだった。子宮に届く勢いで突き上げながら、姿見の痴態を玩弄すると「やぁん…いけずぅ…うふンッ…」と若菜は恨みっぽく鼻を鳴らす。

「ああ…ええわぁ…たまらんわぁ…」少女時代のトラウマが発展した閉所興奮症?を告白して以来、若菜との肉交の場は暗所か目隠しが定番になった。薄暗がりでは隠し切れない気品を湛えた美貌を淫らな陶酔に輝かせる大和撫子。その熱く潤んだ蜜壷の柔襞が、いきり立つ怒張を味わうように妖しくうごめく。

ほんで実際のとこMッ気はどないなんや？
いっ、いや
「普段とベッドの上の貴女のギャップに彼もメロメロ」って記事を試しただけッスよ？
女の子って健気よねぇ
ホント！
でもギャップと言えば松岡さんですよね
まあまあ千恵ちゃん落ち込まないで
ギャップ…
安達さんみたく自宅でHって憧れちゃいますぅ
コーフンしちゃいますぅ！
でも大和撫子を標榜して好きモノっていうのはマズイんじゃなかか？
ねぇ？
でも昼は家女で夜は娼婦って男の人の理想って言うじゃない？
言う言う
でも綾崎さんのは娼婦というよりただの淫乱ですよ？
ただただ誰が淫乱どすかッ！
つかウチの出番こんだけ？

＜おくづけ＞

発行日 /2010.12.31
発行元 / ポロリン軒
発行者 / ポロリン賢
印刷所 / ㈱栄光様
責任者 / 河村賢和
boripolo@osk.3web.ne.jp

＜あとがき＞

こんな本になんの
あとがきかと思いますが、
ナニも書かないと
なんともアイソなしなんで、
社交辞令で一応ね。

えーっと、以前の本で
遺恨残して削ぎ落としたネタが
三ツばかりありまして、
その宿意を本誌で遂げてみました。
ところがその三ツを活かすのに、
残る九ツを慮ること難渋の窮み。
モゥ死ぬかと思いました。
しかも出来上がったらそっちのが
気に入ったりなんかして。
どないやねん。

次回は色々と未定ですが
ご興味あったらまたよろしく。
グゥ。

MAN'S
GREATEST
INVENTION
COULD BE
MAN'S
GREATEST
MISTAKE
THIS IS
THE DAWNING
OF
THE AGE
OF
ERA